



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛭池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127
平成26年(2014年)3月7日 第61号

ことばの持つ力

あわただしく、1年が過ぎようとしています。今年度も様々な研修を実施しました。2月末で市が実施した研修は198回、参加した人は4232人、豊能地区相互交流研修に参加した人は350人と、研修による交流が広がっています。研修参加者のことばをいくつか紹介します。

「授業づくりは複数で検討することによって、さらに充実したものになると感じました。(初任者研修)」

「助言する立場は初めてだったので、難しさを実感しました。学校に戻っても若い人に、もっと助言していきたいと思いました。(10年経験者研修)」

「コミュニケーション力を育むための“場の設定”と教員が持つべき“ねらい”が見えた気がします。(教育相談研修)」

「実際に実験し、陥りやすいポイントや重要なポイントが確認できました。授業に活かしたいです。(理科研修)」

「当たり前のことからきちんとやっていくことが大切だという事を改めて感じました。学んだという実感が持てるように努力したいです。(国語研修)」

「すべてのことに必然性があり、子どもたちの力をつけるために、愛情を持ち、授業にのぞめるように準備したいです。(中学校外国語研修)」

企画側は参加者のことばを真摯に受け止めて、よりよい研修を実施していきたいと思えます。たとえば、研修の最後に、「今日学んだことは、学校のどんな場面で使えるか？」参加者全員で振りかえりをするのはどうでしょうか。

参加者全員で振りかえりをするのはどうでしょうか。

「感じたこと、喜んだこと、自分の体験から学んだ自分のことばが人を動かすことができる。」NHK元アナウンサー山根基世さんのことばです。今年の8月1日、夏季教職員研修の講師でお迎えします。ことばの大切さ、ことばの持つ力について一緒に考える機会になればと思っています。





豊中市の支援教育のいまとこれから・・・[UD から UDL へ]

○豊中市では、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に取り組み、『ともに学びともに育つ』教育を推進しています。



“つながり”を大切に！



○支援教育チームでは次の3つの事業に取り組んでいます

- ・支援学級管理運営事業：就学相談や支援学級の設置に関すること、及び支援教育に関わる研修の実施
- ・支援職員配置事業：児童生徒の状況に応じた障害児介助員や看護師の派遣・配置
- ・学校園支援事業：専門職等による巡回相談を通じて、児童生徒の状況や特性に応じた支援のあり方についての助言や子ども支援員の派遣

○医療的ケアについて

たんの吸引や鼻等から管を通して栄養剤を入れる経管栄養ほか、看護師でないとできない専門的な医療的行為です。日常的に医療的ケアを必要とする児童・生徒も、地域の学校で一緒に過ごし、安定した学校生活が送れるよう、スクールナースがサポートしています。



○今年度の研修より

メタ認知（自分の思考や知覚や行為を意識しようとする行為）の重要性や、本人・周囲が障害特性（ストロングポイント・ウィークポイント等）への理解・認識を深めること、また視覚支援等、支援のあり方を考える上で必要な要素を学ぶことができました。



これからも豊中市が取り組んできた『ともに学びともに育つ』教育を大切にしながら、「UD（ユニバーサルデザイン）」を施設面や学習環境だけではなく学びの中にも積極的に取り入れ、「誰かが・誰かに」ではなく、「誰もが・誰にとっても」わかりやすい授業・支援「UDL（ユニバーサルデザインラーニング）」の実現に努めていきます。



確かな学び推進事業 ～筑波大学附属小学校 学習公開・初等教育研修会から学ぶ～

2月13日(木)14日(金)に小中学校研究協力員4名の先生方とともに、筑波大学附属小学校の学習公開・研修会に参加しました。38の学習公開と道徳や英語活動を含む13の提案授業及び研修会が実施されました。筑波大学附属小学校は完全教科担任制を実施し、学級担任であると同時に教科担当として複数学年の教科を指導することとなっています。指導者は教科部会の研修テーマに沿った個々の研究主題を持ち、専門性の高い授業がなされていると感じました。今回の国語科の研修テーマは「これからの『読むこと』の授業づくりを考える」、算数科は「意欲と学力がともに育つ、算数授業におけるめあてとまとめのあり方」でした。国語の研修会においては「言語活動の充実や単元を貫く言語活動の設定と授業時数の問題」という今日的課題に向き合った大変興味深い討議がなされました。当日は東京は大雪！寒かったけど全国から参加された先生たちの熱気いっぱい、の研修会でした。



* 「確かな学び推進事業」・・・教育振興基金を財源とし、教育活動の充実や教職員の研修等の事業を実施しています。



広がる教育の情報化

○教育用ICT機器の活用

現在、学校には授業用にipad、教育用PC、実物投影機、デジタルカメラ、電子黒板、プロジェクター、大型TVモニターといった多くのICT機器が導入されています。とくに注目されているのはタブレット端末の豊富な教育用アプリによる個別学習、インターネットでの調べ学習、カメラ機能を使った体育での振り返り、理科での観察や実験における活用、デジタル教科書の活用などです。全国的にも、校務・教育用PCの整備にともなう校務支援ソフトの活用などが進んできています。豊中市においても、ICT環境整備とともに、有効な活用事例の紹介等の研修も実施していきたいと考えております。



～文部科学省 資料～



就学前保育教育研修のレポート

2月27日（木）に第2庁舎大会議室にて梅花女子大学の伊丹昌一教授を講師に迎え第3回目の就学前保育教育研修が開催され、98人の先生方が参加されました。「切れ目のない支援」をテーマに、集団の中で共に学ぶために必要な支援について、個別の支援計画を作成し、その支援内容を次のステージに引き継ぐことが大切であることを学びました。



教育センターで購入している教育雑誌

～貸し出しも行っていきます～

初等教育に関する全国の教育事情などの最新情報を紹介。

中学校における理論・実践事例を豊富に紹介。

教職員のための総合情報誌

*新着図書案内

・「事例で学ぶ学校の法律問題」

・『ワークショップ型校内研修』で学校が変わる・学校を変える」

・「学級で起こる『こんな困った～どう対応』」 その他 60冊

相談機関などをすすめる時に気をつけたいこと

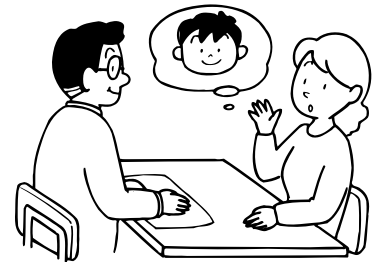
今回は保護者から相談を受けた際の対応について取り上げました。今回は、子どもの気になる様子やトラブルを保護者に伝え、学校から相談機関などをすすめる時に気をつけたい事を、事例を通して考えてみたいと思います。

Aくんは休み時間は一人で過ごすことが多く、ささいなことで友達とけんかになり手が出ることもあります。保護者に様子を伝え、相談できる機関もあると紹介したところ、家では困っていないので必要ないという反応でした。その後保護者と話をすることが難しくなっていました。

<話し合いはどうしてうまくいかなかったのでしょうか>

- ◆家では気になることがなかったため、保護者としては学校での子どもの様子を急に聞いて戸惑っていた。
- ◆その場で相談機関をすすめられ、保護者は学校から見放された、子どもや家に問題があるとみられているのではないかという気持ちになった。

⇒保護者と教師との認識に違いがあるまま、相談機関を勧めたことが、保護者の不信感の一因になったことがうかがえます。このように、本人のことを思ってアドバイスをしたことが保護者を傷つけ、関係が悪化することもあります。



<紹介する前にどんなことに注意をするとよいでしょうか>

- ① **まずは心配な気持ちが伝わるように**：子どもの成長を願う者どうし、一緒に話し合いたいという思いを伝えることが大切です。具体的には、Aくんへの学校での関わりや取り組みを伝えたり、家庭での様子を聞いたりするのがよいでしょう。学校は保護者と子どもの味方だというメッセージをこめて、あせらず丁寧に話をすすめていきます。
- ② **保護者の意見や、気持ちをゆっくり聴く**：一方的にこちらの意見を言うのではなく、保護者の学校に対する気持ちや意見、要望なども謙虚に聞く姿勢が大切です。
- ③ **次に繋げ、協力関係を築く**：今後の対応や目標を話し合えたら、「次はこの日に話し合いませんか」など、次に繋がる話で締めくくります。保護者にとっても今後も見守ってもらえるといった安心感につながります。

<紹介する際、気を付けたい事>

相談機関を紹介する際は①～③も参考にまず保護者としっかり関係を築くことが大切です。その上で、相談機関も学校と同じ、子どもの成長を見守る一機関であることを伝えると良いでしょう。保護者が相談機関に任せきりにされたと不安にならないよう、保護者が相談に行かれた後、その内容について話を聞くことも大切です。

「みんなで一緒に子どもの事を考えていく」という協力関係が築けると、子どもの成長にもよい影響を与えます。ぜひ保護者との関係を大切にして必要に応じて相談機関にもつながることができればと思います。